廃棄物処理の「見える化」で企業の課題解決をサポート

㈱サニックス

廃棄物処理の知見で監修した廃棄物一元管理システム

サニックスは、「住環境」「エネルギー」「資源循環」の3領域で、環境関連ビジネスを推進している。「資源循環」に関していえば、廃プラスチックや廃液の燃料化リサイクルがその代表例だ。グループ内で、廃プラスチックを燃料とする発電所の運営も展開する。

サニックスエナジー苫小牧発電所

廃プラの燃料化から当燃料を使った発電まで、グループ内で実施

さらに昨年度からは、廃棄物に関する業務を一元管理するクラウド型システム「SANIX system（サニックスシステム）」の販売をスタートした。年間1万2千カ所から排出される廃棄物、約36万トンの処理を手掛ける実績と経験をベースに、同社が監修。排出事業者のニーズを反映しているという。

省力化から適正処理、SDGsまで排出元事業者をサポート

廃棄物の排出や処理は、公害や不法投棄などといった社会問題を背景に、法規制が強化されてきた歴史がある。事業活動によって生じた廃棄物は、その種類ごとに、マニフェストと呼ばれる伝票で処理の流れが管理される。排出元企業には、適正に処理されたかを最後まで見届ける責任があり、事務処理は、煩雑になりがちだ。

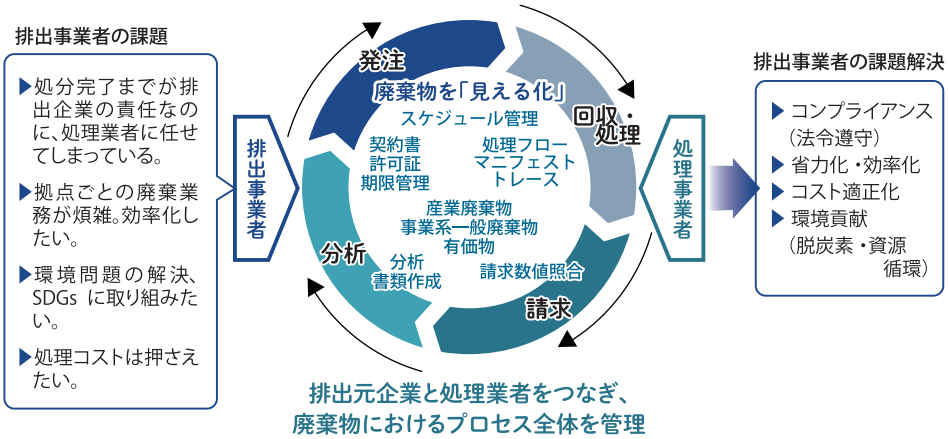
また現在では、廃棄物の排出量削減やリサイクル推進など、環境への配慮についても、企業の社会的責任が叫ばれている。

サニックスシステムは、こういった廃棄物にまつわる企業の課題解決に寄与するものだ。業務の効率化・省力化はもちろん、「委託契約や許可の有効期限管理」「廃棄物の追跡機能」などによって、適正処理の管理もサポート。また、処理の流れが可視化されることで、課題の抽出・改善も容易となる。例えば、拠点ごとの費用の偏りや回収頻度・処理方法を改善することで、処理コストの適正化を図ったり、収集運搬頻度や処分方法の見直しによって、CO_2削減やリサイクル率向上につなげたりと、その効果は幅広い。

なお、操作は簡単で、専任者に頼りがちな業務を分担でき、人材の有効活用にも貢献する。

収集運搬業者向けシステムもラインナップ

この5月には、収集運搬業者向けの「SANIX sympro（サニックスシステムプロ）」もラインナップ。配車や回収ルート・回収状況の管理から、車両の管理までを網羅する。

環境問題への取り組みや労働力不足など、企業が抱える課題は多い。同社は、廃棄物業務の一元管理システムによって、それらの解決の一翼を担う。

【SANIX system のシステム概要・導入メリットのイメージ図】